

# 第 1 章 産業連関表の仕組み等

## 1 産業連関表について

### (1) 産業連関表とは

経済を構成する各産業は、相互に密接な取引関係を結びながら生産活動を行い、必要な財・サービスの供給を行っている。産業連関表とは、ある地域における一定期間（通常1年間）の財・サービスの産業間の取引関係を、行列形式で表した統計表であり、1年間に行われた県内での財・サービスの生産状況や、ある産業が生産した財・サービスが、どの産業の生産活動に、またはどのような需要のために消費されたのかという産業相互間及び産業と最終需要との取引関係を明らかにしている。

### (2) 産業連関表の見方

表（第 1-1 図）のタテ方向は、生産物に係る原材料等の費用構成である。生産物の生産のために、各産業（列）がどの産業（行）の生産物を原材料等としていくら購入（中間投入）し、労働力等（粗付加価値）をいくら必要としたかといった、生産物の費用構成が示されている。

$$\text{中間投入} + \text{粗付加価値} = \text{県内生産額}$$

第 1-1 図 令和 2 年（2020 年）愛媛県産業連関表の概略

単位：億円

需要部門		総需要					（控除） 移輸入	県内生産額	
		県内需要							
		中間需要(内生部門)		最終需要(外生部門)					
		49,638		県内最終需要		97,773			
供給部門		1	2	3	4	消費	投資	移輸出	
		農業	林業	漁業	鉱業				
総供給	県内生産額 101,188	中間投入（内生部門）	49,638						
		1 農業							
		2 林業							
		3 漁業							
		4 鉱業							
147,412		（粗付加価値） （外生部門）	51,550	909	26,757	8,163	12,927	2,793	
		移輸入							46,223
									101,188

生産物の販路構成  
(行:ヨコ方向)

生産物に係る原材料等の費用構成  
(列:タテ方向)

（四捨五入の関係で、内訳の総和は必ずしも合計欄の数値と一致しない。）

一方、表のヨコ方向は、生産物の販路構成である。各産業（行）の生産物が、原材料等として、どの産業（列）にいくら販売（中間需要）され、また、消費、投資、移輸出等（最終需要）にいくら製品として販売されたかといった、生産物の販路構成が示されている。

$$\text{中間需要} + \text{最終需要} - \text{移輸入} = \text{県内生産額}$$

具体的にその流れをみるために、産業連関表を第1次、2次、3次産業別に統合した3部門表（第1-1表）をみてみると、タテ方向に、第1次産業は自部門から192億円、第2次産業から537億円、第3次産業から468億円、合計1,197億円の原材料等を購入し、新たに1,105億円の価値（粗付加価値）を加えて、2,301億円の生産を行っていることがわかる。

次に、この表をヨコ方向にみると、第1次産業は自部門に192億円、第2次産業に693億円、第3次産業に83億円を原材料等として販売していることを示している。なお、この合計の969億円は、第1次産業が生産活動を行うために必要な需要であり、中間需要という。

この中間需要と第1次産業の消費、投資、移輸出などの合計1,988億円（最終需要）とを合わせた需要は合計2,957億円となり、更に移輸入の△656億円を加えた県内生産額2,301億円は、タテ方向の第1次産業の県内生産額2,301億円と一致することとなる。同様に第2次、3次産業をみていくと、県内全体の生産構造が分かることになる。

第1-1表 令和2年（2020年）愛媛県産業連関表（3部門表）

（単位：億円）

	中間需要				最終需要				需要合計 =総供給 =総需要	移輸入 (控除)	県内 生産額	
	第1次 産業	第2次 産業	第3次 産業	計	消費	投資	移輸出	最終 需要計				
中間 投入	第1次産業	192	693	83	969	415	67	1,506	1,988	2,957	△ 656	2,301
	第2次産業	537	19,798	5,086	25,421	5,453	10,711	31,752	47,916	73,337	△ 29,696	43,641
	第3次産業	468	7,643	15,138	23,249	33,751	3,909	10,209	47,868	71,117	△ 15,871	55,246
	計	1,197	28,135	20,307	49,638	39,619	14,688	43,466	97,773	147,412	△ 46,223	101,188
粗付加価値		1,105	15,507	34,939	51,550							
県内生産額		2,301	43,641	55,246	101,188	(四捨五入の関係で、内訳の総和は必ずしも合計欄の数値と一致しない)						

## 2 産業連関表からみた財・サービスの流れ

産業連関表の構造を分かりやすく財・サービスの流れとして表したものが第1-2図である。

### (1) 総供給<sup>1</sup>

令和2年県経済を供給面からみると、財・サービスの総供給は14兆7,412億円で、そのうち県内生産額は10兆1,188億円（総供給の68.6%）、移輸入は4兆6,223億円（同31.4%）であった。平成27年と比較すると、総供給0.0%減、県内生産額0.3%増、移輸入0.7%減となった。

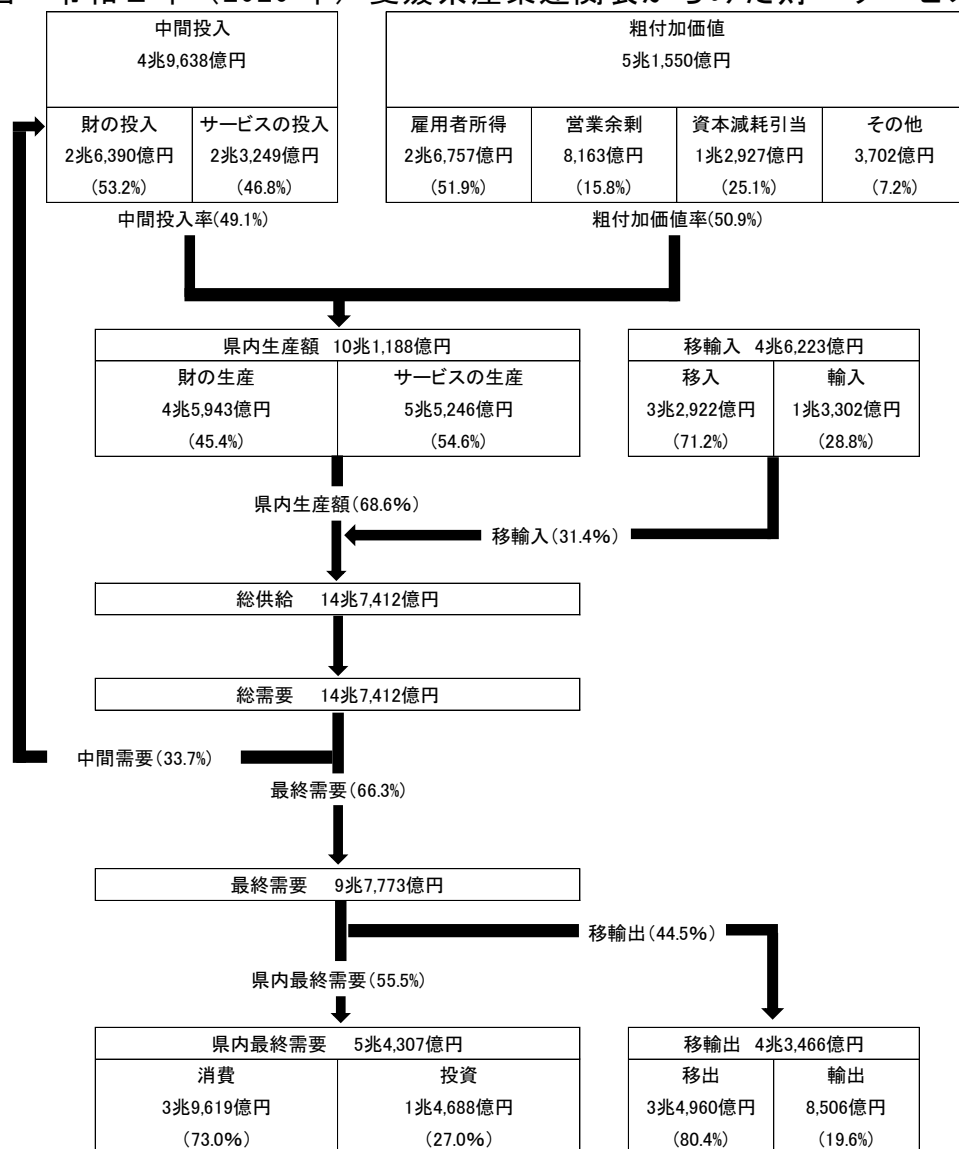
<sup>1</sup> 県内に供給された全ての財・サービスの額のことで、県内生産額に移輸入を加えたもの。総需要に等しい。  
総供給＝県内生産額＋移輸入＝総需要

## (2) 総需要<sup>2</sup>

需要面からみると、財・サービスの総需要は14兆7,412億円で、そのうち中間需要は4兆9,638億円（総需要の33.7%）で、最終需要は9兆7,773億円（同66.3%）であった。

最終需要の内訳は、県内最終需要5兆4,307億円（最終需要の55.5%）、移輸出4兆3,466億円（同44.5%）で、県内最終需要のうち消費が3兆9,619億円（県内最終需要の73.0%）、投資が1兆4,688億円（同27.0%）であった。

第1-2図 令和2年（2020年）愛媛県産業連関表からみた財・サービスの流れ



(注1) この図において、「財」は統合大分類の「農業」～「建設業」及び「事務用品」の合計、「サービス」は同じく「電気・ガス・熱供給」～「対個人サービス」及び「分類不明」の合計である。

(注2) ここで「消費」とは、家計外消費支出、民間消費支出及び一般政府消費支出をいい、「投資」とは県内総固定資本形成及び在庫純増をいう。

(注3) 四捨五入の関係で、内訳の総和は必ずしも合計欄の数値と一致しない。

<sup>2</sup> 総供給に対応するもので中間需要と最終需要からなる。  
なお、最終需要は県内最終需要（消費+投資）及び移輸出からなる。